

■大内政弘 武将。守護大名。応仁の乱西軍の将。朝鮮交易による財力で、公卿・僧を山口に迎え、文化も繁栄。

おおうちまさひろ

・・・・・・1446＝ 大内教弘の長子に生まれる。母は山名宗全の養女。

古河公方始・1455＝ 9歳：

・・・・・・1456＝10歳：この年、父が招いた金春禅竹が周防に来る。

蓮如御文始・1461＝15歳：この頃、雪舟が山口に来る。

・・・・・・1464＝18歳：

・・・・・・1465＝19歳：この年、雪舟が渡明。***父が陣中で病死し、家督を相続。**

・・・・・・1466＝20歳：この年、上杉憲実が長門大寧寺で死去。

応仁の乱始・1467＝21歳：***応仁の乱に2万の兵を率いて上洛、西軍の将として重きをなし、戦功により足利義視から左京大夫に任じられ、京に留まる。**

この間、戦乱で疎開を余儀なくされた閑白で大学者の一条兼良との関係を築き、

・・・・・・1470＝24歳：その留守に伯父教幸が東軍に応じ挙兵したが、留将陶弘護らの策略宜しきを得て教幸は安芸西部で没落、

蓮如吉崎御坊1471＝25歳：石見を経て豊前で自殺した。聖護院道興に命じ、定家筆「古今和歌集」を書写させる。

・・・・・・1472＝26歳：亡父教弘の肖像の贊を、一条兼良に依頼、

足利義政隠居1473＝27歳：**朝鮮貿易を再開。以後、朝鮮から大蔵経を度々将来、**

加賀一揆始・1474＝28歳：一条兼良に「花鳥口伝抄」所望。能阿弥から「君台観左右帳記」贈られる。**鎮西の乱を憂え幕府に帰国願ひ、**

・・・・・・1476＝30歳：一条兼良に「伊勢物語愚見抄」所望。**前將軍義政の命で、東西両軍を和平に導き、**

応仁の乱終・1477＝31歳：義興が誕生。**戦乱が終ると、従四位下に叙され、防・長・豊前・筑前の守護職を与えられて、帰国。**

・・・・・・1478＝32歳：自ら九州に渡り少弐氏を討って筑前を平定。秋月弘種から為世筆「古今集」が献上される。

京都本願寺・1479＝33歳：大蔵経一部請来。この年、亡父教弘への従三位追贈運動に一条兼良が協力、後土御門天皇に働きかけている。**周防に下向して来た右大臣転法輪三条公教は、そのまま滞在し続け、文芸活動に大きな影響。**

・・・・・・1480＝34歳：この年、宗祇が山口に来る。**在京していないにも拘わらず、將軍相伴衆になるなど、幕府で重きをなし、**

兼良+一休没 1481＝35歳：**「金剛般若経」を版行。**

義政政権放棄1482＝36歳：**興隆寺に施財して「法華経」開板が始まり、**

以後、領国経営に専念し、焦土と化した京都の公卿・僧侶らを迎えて、山口文化の繁栄をもたらす。

山城国一揆・1485＝39歳：大蔵経一部請来。全国初の撰銭令を出す。

太田道灌暗殺1486＝40歳：***亡父教弘に従三位が追贈され、氏寺興隆寺に家譜「氷上山興隆寺縁起」を奉納、勅願寺化を申請して認められ、後土御門天皇から勅額を賜り、さらに、亡父教弘の大明神昇格を画策し、**

・・・・・・1487＝41歳：大蔵経一部請来。従四位上。幕府の要請で、近江六角氏討伐に間田弘胤を派遣。**実現に至った。**

加賀一向支配1488＝42歳：將軍義尚から嫡男に義興の名を与えられる。

銀閣寺完成・1489＝43歳：飛鳥井榮雅から「蹴鞠条々」を贈られる。**「法華経」28巻の開板が完了。この年、宗祇が下向してきていることから、準勅撰連歌集「新撰菟玖波集」に向けた合意がなされたとみられる。**

足利義政没・1490＝44歳：大蔵経請来。この年、兼載が山口に来る。

大内義興入京1491＝45歳：再び上京して新將軍義隆を助けて六角氏を討ち、

・・・・・・1492＝46歳：嫡子義興を参陣させて、

明応の政変・1493＝47歳：**「聚分韻略」を開板。**

・・・・・・1494＝48歳：***大内氏は珍籍・稀書の蒐集保管に努め、城内にいわゆる大内文庫を設けていたが、この年の興隆寺文書など見ると、金沢文庫や足利学校と並ぶ大文庫であった。中風が悪化、家督を嫡子義興に譲って隠居。**

早雲小田原城1495＝49歳：**自ら発意し宗祇によって編集された準勅撰連歌集「新撰菟玖波集」の完成直後、没した。学芸にすぐれ、家集「拾塵和歌集」に千5百首、宗祇の「新撰菟玖波集」には75句が収められている。**